No.33
2005 | Spring

岡山大学 埋蔵文化財調査研究センター報

Okayama University Archaeological research center Center report

地域のなかで

遺跡には、その土地に固有の歴史がきざまれています。岡山大学の足元には、津島岡大遺跡、鹿田遺跡、福呂遺跡（鳥取県三朝地区）という、縄文時代以来のとても貴重な遺跡がねむっています。こうした遺跡の調査研究成果について、どのようなかたちで地域の方がたと共有することができるのか―岡山大学埋蔵文化財調査研究センターは大学構内遺跡の調査・研究をおこない、発掘調査や調査報告書の作成をおもな仕事としていますが、それと同時に地域のなかにおける活動も重視してきました。

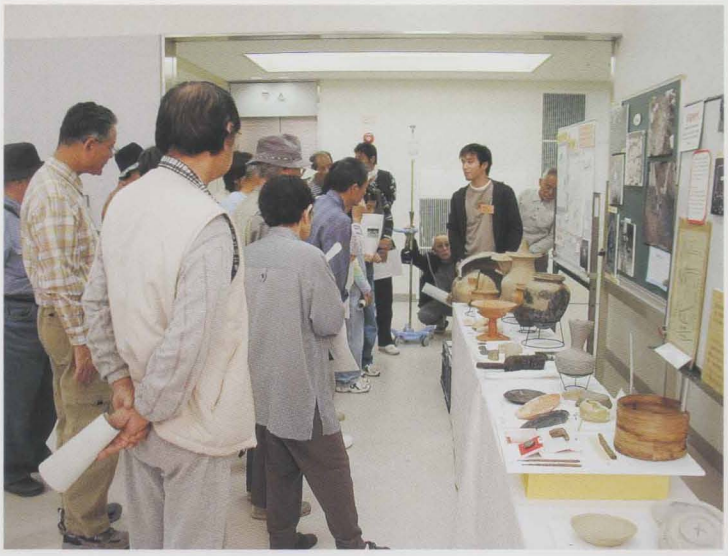
これまで、展示会・現地説明会・総合学習・中学生職場体験・公開講座といった場が、地域の方がたと直接ふれあう機会となってきました。そうしたふれあいのなかで、私たちもまた、たくさんのことを学んでいます。今回は「地域」という視点から、私たちの取り組みについて紹介したいと思います。

（光本　順）

センターのおもな地域的活動

分銅形土製品の製作体験（2004年第8回岡山大学キャンパス発掘成果展）

展示会


鹿田キャンパス特別展示（2003年）

1987年に当センターが設置されましたが、1989年から『岡山大学キャンパス発掘成果展』をスタートしました。この展示会は、構内遺跡の調査研究成果を学内・学外の方にひろく知っていただくためにはじめました。今では8回目を数え、2000年からは定期的に毎年秋に開催しています。リピーターの方も多く、アンケートでは「毎年どんな展示なのか楽しみ」という声をしばしばいただいています。また最近は、岡山大学附属図書館で同時期に開催される『池田家文庫貴重資料展』とタイアップし、大学の文化的事業の一環となるよう努めています。

展示会はセンターが所在する津島キャンパスでおこなうことが多かったのですが、鹿田キャンパスにおいても第2回目の成果展や、最近では2002年と2003年に、鹿田遺跡の現地説明会とあわせて特別展示をおこないました。2003年の特別展示は、新病棟のフリースペースをお借りしておこないましたが、道すがら多くの方がたに展示をみていただくことができました。

第8回キャンパス発掘成果展「土・技・心」

センター展示室の見学

実物の土器にふれる

2004年10月26日～31日までの6日間、第8回岡山大学キャンパス発掘成果展を開催しました。今回は、「土・技・心」というテーマをたてました。構内遺跡にて出土した縄文時代から中世までの土器や岡山大学文学部考古学研究室が保管している人の形をした土製品の展示とともに、土器の文様をつけたり、土製品をつくったり、ロクロをまわしたりする体験コーナーを設け、いにしえの技と土に込められた心にスポットをあてました。期間中、学内・学外から253名の方に来場していただきました。

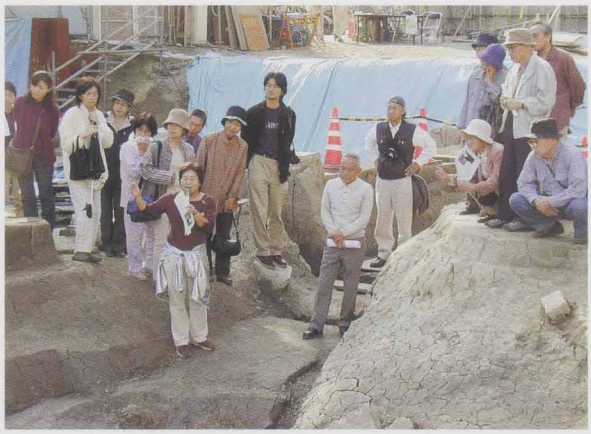
展示した土器は、どれも実際にさわっていただき、手ざわりや重さを実感してもらえるように工夫しました。この企画はとても好評で、見るだけではわからない意外な重さや質感に関する新鮮な声を多くききました。今回は全盲の方も見学にいらっしゃいましたが、「何より土器にふれることができたのが一番良かった」という感想をいただきました。あらためて実物にふれる機会の大切さを、私たちも再認識しました。

体験コーナーでは、分銅形土製品と呼ばれる弥生時代の岡山で多くつくられたまじないの品を製作するコーナーがとくに人気でした（表写真）。当時のつくり方を追体験する企画は毎年好評で、これからも工夫を重ねていきたいと思います。

現地説明会

発掘調査で重要な成果がえられた場合、調査成果を現地の遺跡で多くの方にみていただくために、現地説明会をひらいています。最近では、津島岡大遺跡第23次調査（文化科学系総合研究棟、2000年）、鹿田遺跡第13次調査（総合教育研究棟、2002年）、鹿田遺跡第14次調査（病棟、2003年）で実施しています。

現地説明会では、県内外の研究者や、地元の方がた、学内の方がたで毎回にぎわいます。鹿田キャンパスでは、医療器具をつけながら見学に来てくださる患者さんもいらっしゃいます。現地説明会とあわせて、構内の他の調査地点で出土した遺物を展示する企画もおこなってきました。



鹿田遺跡の現地説明会（2003年）

公開講座・講演会

講演会のようす（1998年、センター設立10周年記念）

「地域の歴史を知りたい!」という要望は、多くの方がたからいただきます。そうした要望にこたえるべく、私たちも公民館や大学の行事、展示会の一環で公開講座や講演会をひらいてきました。内容は、津島キャンパスからたくさん出土する縄文時代のドングリ貯蔵穴の歴史や、鹿田キャンパスにねむる一大荘園遺跡「鹿田庄」の実態など、さまざまな切り口から最新の成果をわかりやすくお伝えできるように努めています。

総合学習・教育支援

ときにセンターの狭い展示室が、たくさんの生徒さんの活気であふれることがあります。当センターでは、地元の小学校・中学校・高等学校における「総合的な学習」の受け入れをおこなってきました。キャンパス内の遺跡や遺物をじっさいに見てふれることは、地域の歴史を学ぶための絶好の機会となっています。

写真は、岡山市立津島小学校の生徒さんたちが、津島地区の歴史を調べるために、センターに来てくれたときのものです。

遺物を手にとって観察する小学生（2004年）

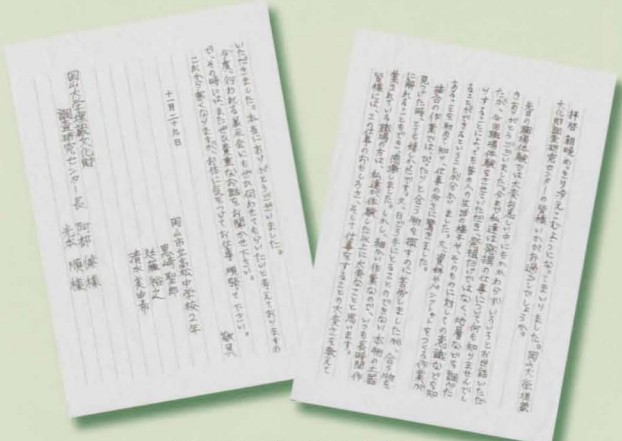
中学生職場体験

熱心に土器の整理をする竜操中学校のみなさん（2004年）

▲写真の整理作業

◀種子の写真撮影

仕事中の高松中学校のみなさん（2004年）



お礼状の一部（高松中学校）

総合学習とともに、地域における教育支援の一環として中学生職場体験の受け入れを2002年度から行っています。2004年度は、昨年度に引き続き岡山市立竜操中学校と岡山市立高松中学校の各3名の生徒さんが、センターでじっさいの仕事を体験しました。竜操中学校は11月16日～18日、高松中学校は11月19日に実施しました。

体験メニューを紹介しましょう。今回はキャンパス内で発掘調査をおこなっていなかったため、最初にセンターでの仕事の全体を解説した後に、室内での仕事をしていただきました。3日間おこなった竜操中学校の生徒さんの場合、整理室の掃除や図書の整理、土器の接合、土器の整理、デジタルカメラ付きの顕微鏡をつかった種子の写真撮影、保存処理をおこなった木製品の整理、文学部の考古資料展示室の掃除と見学といったことが、おもな仕事内容です。高松中学校の生徒さんにも、短い期間ながら、上記の仕事のなかで主要なものを体験していただきました。どの生徒さんにも、たいへん熱心に仕事に取り組んでいただきました。

最後にきいた感想や、いただいたお礼状を拝見すると、掃除から遺物の保管のための作業、調査報告書の発行にかかわる作業にいたるまで、普段は表に出ないようないろいろな仕事があることが、十分に伝わっていたと思います。私たちにとっても、生徒さんたちとの交流はとても新鮮なものです。今後とも、こうした機会にセンターとしても積極的に協力し、地域に根ざした教育活動にかかわっていければと思っています。

編集後記

今回は、地域のなかでおこなっている、当センターの活動について紹介してきました。地道な活動を今後いっそう続けていきたいと思います。（光本）

■編集発行／岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

〒700-8530 岡山市津島中3丁目1番1号　TEL・FAX（086）251-7290
［ホームページ］http://www.okayama-u.ac.jp/user/arc/archome.html

2005年3月15日　発行